

平成30年度 現地検討会実施状況

木材の安定供給

7

国有林	104
民有林	0
自治体	48
事業体	50
研究機関	0
その他	5
合計	207

分類	検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	出席者	目的	内容	写真														
木材利用	適切な採材・仕訳の推進勉強会	10月2日	後志森林管理署	登別市(国有林)	<table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>9名</td></tr> <tr><td>民有林</td><td>名</td></tr> <tr><td>自治体</td><td>名</td></tr> <tr><td>事業体</td><td>2名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>11名</td></tr> </table>	国有林	9名	民有林	名	自治体	名	事業体	2名	研究機関	名	その他	名	合計	11名	生産事業における仕訳(品等格付)に関する職員、事業体双方の共通認識の醸成のため	製品生産現場において日本農林規格に基づく採材や仕訳の考え方を説明し、適正な木材利用への理解を深めた。 意見交換では「品等格付の基準について、共通の認識が持てるようになった」などの意見が出された。	
国有林	9名																					
民有林	名																					
自治体	名																					
事業体	2名																					
研究機関	名																					
その他	名																					
合計	11名																					
								現物を用いた説明														
バイオマス	森林施業技術研修会	10月9日	日高南部森林管理署 日高振興局森林室	浦河町 新ひだか町	<table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>14名</td></tr> <tr><td>民有林</td><td>名</td></tr> <tr><td>自治体</td><td>24名</td></tr> <tr><td>事業体</td><td>21名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>62名</td></tr> </table>	国有林	14名	民有林	名	自治体	24名	事業体	21名	研究機関	名	その他	3名	合計	62名	コンテナ苗の利用促進及び搬出間伐の普及定着と林地未利用材のバイオマス資源化の促進のため	コンテナ苗の利便性効率性を認識し活用に繋げるために改良オーガを使用しての植栽体験を実施した後、列状間伐実施箇所での未利用材の仕分け及び搬出、集積方法の効率的な作業について事業者から説明を受けた。 意見交換では「植付が簡単で効率的、植付作業で採用したい」等の感想や、「林地未利用材の歩止まりや移送後の収益」についての意見があった。 今後、日高地域の工場(バイオマス関連)に未利用材の集荷を普及・推進していく。	
国有林	14名																					
民有林	名																					
自治体	24名																					
事業体	21名																					
研究機関	名																					
その他	3名																					
合計	62名																					
								講師による指導														
木材利用	素材生産及び販売業務検討会	10月18日 ~19日	北海道森林管理局旭川事務所 北海道森林管理局資源活用第二課	旭川市(上川中部森林管理署会議室) 旭川市(旭川銘木市会場)	<table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>31名</td></tr> <tr><td>民有林</td><td>名</td></tr> <tr><td>自治体</td><td>名</td></tr> <tr><td>事業体</td><td>名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>31名</td></tr> </table>	国有林	31名	民有林	名	自治体	名	事業体	名	研究機関	名	その他	名	合計	31名	広葉樹等の付加価値の向上と広葉樹中小径材の安定供給のため、適切な採材・仕訳の徹底と銘木市出品推進に向けた検討会を実施	適切な採材・仕訳の徹底のため「銘木市出材採材仕様」及び「広葉樹販売の需要動向」を用い座学した後、旭川銘木市会場にて銘木の現地検討、更には、銘木市査定委員から銘木の解説と需要動向の説明を受けた。 意見交換、質疑応答では「高額材とするための長級」、「夏場の品質保持の方法」、「ロット桤(中小径材)の利用のされ方」等について意見や質問があった。 次年度は、今年度から出品を始めた北海道有林及び北大雨龍研究林の担当者と共にするなど連携を深め、道産広葉樹の付加価値向上を図る。	
国有林	31名																					
民有林	名																					
自治体	名																					
事業体	名																					
研究機関	名																					
その他	名																					
合計	31名																					
								銘木市査定委員による銘木の解説														

平成30年度 現地検討会実施状況

木材の安定供給

バイオマス	初山別地域森林整備協定に基づく木質バイオマス勉強会	11月29日	留萌北部森林管理署 留萌振興局森林室 初山別村 遠別初山別森林組合	下川町	国有林	7名	木質バイオマスによる地域材の利用促進のあり方を検討するため、バイオマス利用先進地域の見学会を実施	下川町一の橋地区バイオビレッジ（熱供給施設、集合住宅、特用林産物栽培研究所等）において、町担当者から説明を聞きながら施設見学を行った。 木質バイオマスボイラーによる地域熱供給により、雇用が生まれ地域の活性化につながった事例を理解した。	
					民有林	名			
					自治体	7名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	14名								
施設の見学									
木材利用	Woodコーディネーター育成研修会（林業成長産業化地域創出モデル事業）	12月4日	網走西部森林管理署 網走西部森林管理署西紋別支署 網走西部流域森林・林業活性化協議会（紋別市）	滝上町（網走西部森林管理署西紋別支署里土場）	国有林	8名	民有林材の販売技術の向上を図るため、素材の日本農林規格及び広葉樹丸太の品等格付について研修会を開催	民有林（森林組合）においては、広葉樹の出材量が少ないことや土場が狭いことなどから広葉樹の品等格付を行うことが少ないところであるが、広葉樹丸太のロット生産や販売技術の向上を目指し、民有林関係者を中心とした品等格付に関する現地検討会を実施。国有林の広葉樹の生産材を利用して品等格付等について説明した。 民有林関係者からは、「知識を今後の民有林材の販売に活かしていきたい」等の前向きな意見が多く得られた。	
					民有林	名			
					自治体	14名			
					事業体	7名			
					研究機関	名			
					その他	2名			
合計	31名								
検討会の実施風景									
木材利用	森林土木分野における木材利用促進検討会	12月6日～7日	北海道森林管理局旭川事務所 北海道森林管理局治山課 北海道森林管理局森林整備第二課	旭川市(上川中部森林管理署会議室)	国有林	26名	「新農林水産省木材利用推進計画」に基づき森林土木分野においても木材利用を促進するため、過去の木製構造物の効果検証と新たな木材利用創出に向けた検討会を実施	約20年前に編まれた間伐材使用事例集を基にこの夏現地調査を行い、構造物の効果検証結果をまとめ局署の担当者による意見交換を行った。また、新たな木材利用創出について模索した。 意見交換では、「木材腐朽は進行していない。現在も十分機能」、「新たな木材利用には歩掛りが必要」といった意見が出された。 次年度は、最近の若しくは施工中の木製構造物を道有林技術者と現地検討し、民有林連携と技術の向上を図る。	
					民有林	名			
					自治体	名			
					事業体	名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	26名								
木製構造物の効果を意見交換									
木材利用	平成30年度広葉樹材の説明会	12月26日	十勝東部森林管理署	足寄町（国有林）	国有林	9名	森林室からの要望により、銘木市に出品する広葉樹材を利用して、土場にて広葉樹の見分け方や市への出品等について森林所有者に対して説明会を開催	広葉樹の樹種の見分け方、銘木市への出品方法について、土場の材を用いて説明した。 購入希望者が多い市への出品によって高値で売れる可能性があること、材としては欠点でも購入者の希望によっては欠点でなくなることがあること、近隣の森林所有者が共同して出品すると運賃等が割安になり経費が低減できること等を説明。 民有林所有者間で共同して、市への出品を検討したいとの感想や、このような場を利用して広葉樹や材価、出品方法等に係る説明会の継続して開催して欲しいとの要望があった。	
					民有林	名			
					自治体	3名			
					事業体	20名			
					研究機関	名			
					その他	名			
合計	32名								
広葉樹材の説明を聞きながら木口の状況を観察する参加者									